

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200438		
法人名	株式会社 バリアフリーLife		
事業所名	グループホーム ひだまり 蓮花		
所在地	佐賀県唐津市養母田545番地1		
自己評価作成日	平成28年12月16日	評価結果市町村受理日	平成29年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成29年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様がこれまで生きてこられた歴史とご家族様との絆や快適な生活環境を特に重視し、運営を行っている。
お客様の過去・現在・未来といった時間を意識し、お客様がより楽しい日々を送れるように季節を十分に感じ、アットホームな雰囲気の中、メリハリのある生活を送って頂けるように力を入れている。またご家族様の負担や思いをしっかりと受け止め、今まで以上に、お互いのことを思いやれる絆作りができるように職員一同力をいれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは郊外の住宅地に隣接した場所にあり、近くには野菜畑などがあり、そばには松浦川が流れており四季折々の変化を感じる事ができる。地域の住民の方々が頻繁にボランティアに訪れるなど、地域のつながりも見受けられる。建物の中心は円形の吹き抜けになっている。また、入居者の方が活けられた花が共有空間におかれ、和やかな雰囲気が感じられる。職員間で感謝の気持ちを伝え合う「ありがとうボックス」を作り職員間のモチベーションの向上を図っている。入居者に対する職員の姿勢には寄り添いの思いを感じる事ができる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「経営理念である『寄り添い』のもと、命と絆を意識した丸く温もりのあるサービスを行う」という事業所理念を掲げ、医療や近隣住民と連携しながら一緒にお客様へのサービス向上に努めている。	朝礼時に唱和をしたり、日常の支援を通じ理念を共有し理解を深めている。職員同士が理念に基づいた支援ができるように、日々意見を出し合い支援に反映するように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域行事等に参加させて頂けるように呼びかけ、また行事にも参加している。さらに職員互助会にて事業所周辺の清掃活動も年に2回ほど行っている。	散歩のときには挨拶を交したり、地区の運動会や敬老会には参加をするなどして交流を深めるようにしている。地域の方から、花苗などを持ってきてもらうなどの交流も見られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症や介護保険に関する情報を発信すると共に、慰問を呼び地域のボランティアグループの発表の場として利用して頂き、顔なじみの関係を築くようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区代表の方、ご家族様代表の方などから頂いたアドバイスをレクや慰問や地域行事などに活かしたり、こちらからも消防団との訓練協力などを要望したりし、サービス向上に活用している。	年6回開催し、ホームの状況報告や情報交換の場となっている。地区からの助言により、行政へ呼びかけ、ホームの前に信号機が設置され、環境が整えられるなど、会議で出された意見が反映されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き、相談・報告を確実にしている。お客様の意見をしっかりと把握し、バランスの取れたサービスを心がけている。	市とのやり取りは法人を通じて行っており、法人から各事業所に連絡をしている。地域包括支援センターとは情報の交換や相談のやり取りを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束を行っていない。 ②外出される時は職員が付き添いを行い、自由に外出して頂けるような体制を取っている。普段より拘束をしないようなケアに取り組んでいる。また、事業所会議にて職員への研修を行っている。	1人ミトンを使用しているが、普段より拘束しないようなケアについて話し合い、解除に向けた取り組みを行っている。事業所会議等で職員への研修に取り込んでいる。玄関は日中は施錠していない。	確認書や記録などの書式はそろっているので今後ともそれらに沿って十分に配慮して行ってもらいたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から自分たちの言動について注意し合うように注意喚起したり、事例などについて話し合いの場を持ち職員の意識を高めている。また、事業所会議にてチェックポイントの把握などを職員への研修を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や社内での勉強会を行っている。また参加できなかった者は、研修報告などを行い確実に知識の共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は、お客様やご家族様が納得して頂けるまで説明の時間を取り誤解や不安が残らないように取り組んでいる。また、こちらからお客様に疑問点等を問いかけることを必ず行い解決している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を意見交換の場としたり、ご家族様へのサービスアンケートを行っている。また苦情対応マニュアルの整備を行い、第3者機関の連絡先担当部署などを明記し、紹介している。	自宅を訪問して、家族も話しやすい雰囲気の中で情報収集を行い、要望等の把握に努めている。日常生活の様子を担当者が毎月写真付きのホーム便りを送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①事業所、主任・所長のそれぞれの会議があり、職員の意見を聞いている。 ②定期的に職員と面談し、対話の機会を設けている。	ホームの会議で、職員に発言する機会を設け、出た意見を経営会議に出している。代表が職員それぞれに手紙を書いて、代表の思いも伝える機会がある。職員から出た意見は運営に羽井手切るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員とのコミュニケーションを図り、現在思っていることを吸い上げ、可能な限り働きやすい現場に出来る環境を作っている。一人で悩みを抱えないよう相談員が定期的に職員の声を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社当初は、1つ1つのケアを一緒に行ないきちんと出来ている事を確認してから1人で対応していただくようにしており、その後も面談を行ない、ケアに不安などがなければ確認を行っている。また、法人内外の研修にも参加する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際のグループワークなどで、情報交換を行なっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①事前訪問で関係作りをしっかりと行っている。 必要ならば何回でも訪問を行い関係を事前に作る。 ②10年前の生活環境、趣味趣向、仕事などを把握し、本人の生活スタイルを受容することでコミュニケーションを取りやすくし、本人の不安やストレスが少なくなるような環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係をしっかりと作れるように必要ならば何回でも訪問を行い事前訪問で関係作りに努めている。またご入所前にお客様の生活歴等の情報を十分に聞き取りして、施設での支援をご説明し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい確認を取りながら、必要に応じた援助を検証し、早期に適切なサービスの提供を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①お客様を人生と先輩として尊敬の気持ちを忘れず、相談、指導、協力を基本として共に生活していくことを徹底している。 ②出来る事はして頂くよう声かけを行いながらも見守り等のサポートをし、残存機能を活かすように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①介護の2面性を十分に理解し、ご家族様の負担や思い、ご利用者様の生活と意思の両面を常に意識し、最良の支援方法を一緒に相談し決定していくようにしている。 ②家族会などを通してご家族様と一緒に利用者様の生活を援助していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①お正月、節句、お盆、大掃除など昔ながらのならわしを家庭的な雰囲気で行っている。その方の家庭のならわしを出来る限り適応するようにしている。 ②ご家族やご友人など面会に来て頂き、家族の行事などは、参加されるように支援している。	病院帰りの時には、自宅付近などこれまでの馴染みのあるところに寄ったりしている。知人や友人の面会があったときには時間の制限をしないで自由にしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係に常に目を配り、時にはクッションに、時には通訳などになり一人ひとりが楽しく生活できるように援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設での介護が困難となり退所されたお客様も病院へお見舞いに伺ったり、お亡くなりになられた時の葬儀参列はもちろんの事、初盆参りやご家族様の顔を見にいくなどの関係を築いている。また、施設のイベントには必ずお声かけをし、気軽に立ち寄れる場所になるようにと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①日々の会話からさりげなく聞き取るようなスキルを日々意識させている。また、アンケート等を行いみなさんが気軽に希望を言えるようにしている。 ②希望がある場合には、最善を尽くすようにしている。難しい場合には専門家や経験者などへ依頼、相談などをし、事業所だけで可否を決定しないようにしている。	日々の支援を通じて職員が入居者の好みや要望などを聞き取っている。本人からの聞き取りが困難な場合には家族からの情報や日常の様子から記録を取り、思いや意見の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に徹底して行うようにしている。自己評価項目⑮にも通じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が日々の観察を十分に行っている。また事業所の会議にてお客様についての話し合いを徹底して行い、多くの視点にて総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で出た問題を吸い上げ、計画、作成し家族の方、ご本人様にしっかりと説明し、意見や要望を聞き取り、必要であれば再度見直し、聞き取りを繰り返し納得のいくプラン作りを行っている。	毎月自宅を訪問して、本人・家族の要望や意見も聴きながらケアプランの作成も行っている。状況に応じてプランの見直しを行うなど臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①一目で援助内容が分かるように日々生活援助を具体的に書き出して、カルテに綴じ、チェックするようにしている。 ②個別ケアも1日1日記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①買い物に行きたい、散歩に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助を行っている。 ②家族様等の要望には施設内にてよく話し合い柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、協力機関に協力を求め応じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人のかかりつけ医を設けて、定期的に往診、受診している。 ②協力医療機関とは、24時間体制で契約している。	かかりつけ医による定期的な往診、受診が可能である。希望があれば他科受診の対応も可能である。協力医の場合には24時間の受診対応ができるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や医療活用の支援をしている。小さな気づきも看護職に報告し、早期対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はムンテラの機会を作っていたいただき、ご家族様も安心して治療できるよう情報提供・相談しやすい場面を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、看護師、介護職、ご家族と情報交換し、共に変化に備え、検討し準備している。特にご家族様とは必要に応じてはその都度何回も方針を確認している。	重度化した場合や終末期になった場合に、その都度説明と確認を行っている。かかりつけ医、職員、家族と情報共有をして病状の見極めをしながら、夜勤の2人体制など必要な対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備により全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①運営推進会議にて避難場所の確認を行っている。 ②マニュアルの整備にて混乱がないよう訓練している。 ③引き続き地域の消防団と合同での訓練ができるよう区長さんから掛け合っている。	夜間想定を含めた避難訓練を行っている。区長から消防団への訓練参加の声掛けを行ってもらっているが、参加には至っていない。地震対策として非常食・水などの備蓄も行っている。	地域の消防団の協力支援体制がまだ整っていないので出来るだけ早く協力体制が整うことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①一人ひとりが人生の先輩として尊敬し、またお客様として人格を尊重し関わっている。 ②一人ひとりのプライドを損ねない様、またその人の世界を大切に受け入れることを大切にしている。 ③排泄介助や入浴など個別にて対応するようにしている。	トイレへ誘導した際に、職員は外で待機して終わったら合図してもらったり、他の入居者にわからないように対応するなど、プライバシーへの配慮を行っている。新人研修で一人一人の人格を尊重するような接遇の研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①自分が色々決定していくかは、日頃のケアの満足感から生まれるためゆったりとその人に合わせた生活をしていただく。 ②おやつ時の飲み物など簡単な事から希望を聞くようにして、自己決定が出来るようにしている。 ③静かな方、あまり表現しない人に対して、特に働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①生活の流れを職員側のやり易さにあわせるのではなくお客様側にあわせている。どんなに忙しいときでも話しかけられたら、きちんと向き合い話を聞く。 ②お客様に関わる時はゆったりする事を大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合った髪型、服装をしていただき、自分で出来ないところは介助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	①食事はもちろんのこと、準備片付け等も利用者と職員が一緒になって楽しみながら行っている。 ②お客様の希望を食べ物だけでなく、道具でも聞き、自分で食べて出来る限り食べて頂けるようにしている。	食事の準備やおしぼり配り・配膳・後片付け・おやつ作りなど入居者のできる範囲で参加されている。入居者の好みの献立を提供するなど食事の楽しみづくりに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・摂取量の状態を記録し、情報を共有して個々のケアに取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後必ず、うがい、歯磨きをおこなっている。出来ない方は援助して行っている。 ②入れ歯使用の方は定期的に消毒を行っている。また、食事前には必ず口腔体操を行い口腔を意識した支援を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。一人一人の排泄パターンの把握に取り組んでいる。	排泄チェック表をもとにパターンを把握し、適宜トイレ誘導を行うことで、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の中で出来るだけ自然排泄できるような工夫(運動や乳製品摂取等)を行っている。また、日中にトイレ誘導を行う事で排便が出やすいようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりが希望に合わせて入浴ができるように支援している。 お湯の温度、入浴時間も一人ひとりの希望に合わせている。	入浴日は決まっているが希望があれば毎日入浴することも可能である。脱衣場は前もって暖かくしてあり浴室も広くゆっくり入浴することができるように配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつくり、安眠に繋げている。また安眠を得られるよう、眠前に温かい物を飲んで頂いたり、湯たんぽの使用や室温調節等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服者一人ひとりの薬の効能を知り、医師の指示通りに内服できるように支援している。また、薬の変更や本人様の状態など事業所会議で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	聞き取りした生活歴を活用すると共に毎日の個々の楽しみ、役割が持てるようお客様の意思を尊重したり、職員から情報を提供して張り合いのある生活に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日には日常的に散歩を行っている。またご家族様と一緒に外出や外泊ができるように支援をしている。	天気が良い日には希望に応じたり、声掛けをして散歩や買い物に出かけたりしている。また、花見やドライブなどの外出の機会がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①希望があった場合、可能な限り速やかに対応している。 ②訴えの無い方にも声かけを行い外出や買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など希望があれば速やかに対応するようにしている。また手紙の返事などの訴えがない時はこちらから声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①家庭的で、カーテン・家具などを暖色系としており、ほっとするような雰囲気が出来ている。 ②施設内には季節の花を常に飾っている。 ③室温や湿度が快適になるよう湿温計を各部屋に設置している。	備え付けの備品の色は統一され、入居者の作品や入居者が活けた季節の花を飾るなど快適で居心地の良い空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファだけでなく、テーブルやイスを利用し、小グループや一人になれるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、人形などの生活用品を自由に持ち込んでいただき、その人らしい部屋作りをしている。	ホームからの備品は最小限にとどめてあり、使い慣れた家具や生活用品を持ってきてもらって配置するなど、居心地の良い空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差ができないようにフラットにしたり、手すりを設置するなどバリアフリー設計にて自立援助を支援している。また、各居室には表札を設置し自分のお部屋を認知できるようにしている。		